

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎

16



今日1日から5日ま 洋・地中海のクロマグ

で、ICCAT(大西洋 マグロ類保存委員会) 獲規制の効果もあり、 科学委員会がスパンで 行われこのほど、 している報告してい

その報告書が公表され た。メバチ、キハタな ど、各魚種の資源評価 が報告されているが、 最も関心の高い東大西



よ。漁業者の中には、 漁獲枠の増加を求める 動きも生じていると伝

えられている。 ◆懸念される 不確実性◆ クロマグロ資源の危

地中海クロマグロ増加の兆候

来月保存委年次会合対応を注視

の立場を示している。 報告書には、評価の不 確実性への懸念を示す

◆望まれる Sカメラ導入◆ 記述が随所に見られ、 また、資源の増加が明

らかといえども、回復 の程度や速度について は不確実としており、

漁獲規制の緩和には慎 重な姿勢が示されてい

特に地中海の漁業から

るのだ。

ICCAT科学委員

の議長を務めたこと

ある鈴木治郎氏は、

蓄養イケスにいけこ

んだクロマグロは、尾

数はもとより、体重、

体長の測定もできない

ので、資源評価の盲点

になっており、改善が

必要だと述べている。

得られるデータが不確

必要だと述べている。

実と指摘している。東

ステレオ・カメラとい

う新技術の開発によ

口漁業である蓄養漁業

り、この問題の解決の

道がみえてきたよう

いい加減だという指摘

くステレオ・カメラに

よる蓄養クロマグロの

いすれにしても、資

源管理措置は、科学委

員会の勧告を尊重し決

定するのが筋道であ

り、今回その勧告が、

慎重な姿勢を示してい

る以上、業界が厳しい

規制の緩和を一日も早

く実現してほしいと望

むのは十分理解できる

が、科学者が、自信を

もって、クロマグロ資

源の回復を報告でき

るようになるまでは、

(毎月1回掲載)